

令和 5 年度第 1 回

奥州市総合教育会議
会議録

令和 5 年 6 月 26 日開催

奥 州 市

1 開会、閉会等に関する事項

開催日時 開会 令和5年6月26日（月）午後3時30分

閉会 令和5年6月26日（月）午後5時

開催場所 本庁3階303会議室

2 出席者の職及び氏名

倉 成 淳 市 長

高 橋 勝 教育長

吉 田 政 委員（教育長職務代理者）

高 橋 キ エ 委員

松 本 崇 委員

菊 地 幸 委員

3 説明のため出席した職員

（教育委員会事務局）

佐藤浩光教育部長、松戸昭彦教育総務課長、吉田博昭学校教育課長、菊池長学校教育課主幹、小野寺正行歴史遺産課長

事務職員出席者：千田俊輔教育総務課長補佐

（協働まちづくり部）

千葉達也協働まちづくり部長、千葉学生涯学習スポーツ課長

4 主要議題

郷土芸能（無形民俗文化財）について～教育とまちづくりの視点から～

5 協議の概要

開会、市長・教育長挨拶、主要議題の協議

第1 開会

佐藤教育部長が開会を宣言

以降、佐藤教育部長が進行、第4についてはテーマに従い倉成市長が座長となり進行

第2 市長挨拶

総合教育会議は本市教育の課題や目指す姿を共有し、一層の連携を深めながら進めていくものである。会議で出た対策等について、協力しながら執行に当たることを目的としている。

本日のテーマは「郷土芸能について」である。現在の81団体のうち、復活が難しい団体が19団体ある。これらについて市がどのように進めていくかが協議のポイントになると思う。忌憚のない御意見をお願いしたい。

第3 教育長挨拶

本市教育の振興に取り組むためには、市長及び教育委員会が一層の連携を深め、共通認識や課題解決の方向性を探り、本市の子どもたちや市民が「このま

ちに住んでよかった」と思えるよう、あるいは将来の夢を実現できるよう、しっかりと学びの場を提供するための取り組みを展開していく必要があると考えている。

本日のテーマである「郷土芸能」については、後継者不足など様々な課題がある。地域の大切な文化である郷土芸能を守るため、継承、保存、普及啓発の機運醸成を図る必要がある。

昨年、奥州市に伝承される国指定重要無形民俗文化財「鬼剣舞」を含む「風流踊」が、ユネスコの無形文化遺産に登録されたので、これを機に教育やまちづくりの視点から郷土芸能を巡る在り方や活用方法について検討したいと考えている。

様々なご意見を頂戴できれば幸いである。

第4 協議事項

テーマ「郷土芸能（無形民俗文化財）について～教育とまちづくりの視点から～」

小野寺歴史遺産課長から資料により、テーマの背景、課題等について説明を行った。

【協議】

倉成市長：教育委員会のアイデアも参考にしながら委員の皆さまから御意見をいただきたい。

吉田委員：「まちづくり」の定義はあるのか。わかっているような気がするが、どのようなことを「まちづくり」と言うのか。

小野寺歴史遺産課長：郷土芸能だけではこのまま萎んでいくと思われる。教育にあっては、郷土芸能という材料を基にして教育的な部分を深めていくことができるのではないかと考えた。まちづくりにあっては、郷土芸能に全く関わったことがなくても、例えば編集などで郷土芸能に関わりを持ち、自分の得意なことを行うことでまちづくりに関わることができるのではないかと。自分の好きなことをやるのがまちづくりになるという考え方である。

倉成淳市長：よく、まちづくりは人づくりと言われる。人づくりは、地域に愛着を持った人であるとか、地域に興味を持った人を指すのだと思う。そのツールの1つとして郷土芸能があるという仮説だと思う。

高橋委員：ある舞台を見て郷土芸能に興味を持った小学生がいる。鬼剣舞等をYouTubeで見て益々興味を持ち、今年の春から他の地域の鬼剣舞の活動を始めた。このように配信することは大事だと思う。私もYouTubeを見てみたが、その団体が配信しているのではなく、興味がある方が公演の様子を配信し、それを見た小学生が興味を持ったということである。活動している団体の方に聞いてみると、なかなか動画の配信をできる人がいなく自ら配信することは難しいとのこと。実際に演じている場で見るのが一番いいのだろうが、なかなか機会がない子どもは、YouTube等で興味を持ってもらうこともよいのではないかと。

菊地委員：衣川の川西大念仏剣舞の公式ホームページを見た。3人の若手を中心に活動しており、そのうち1人は盛岡から通っている。もう1人は元スタイリストで広報やデザインを担当しており、グッズを作ったりSNSによる発信

をしたりしている。活動している感じが凄いと思った。問題点や今後の活動についてもホームページに掲載されており、伝承は大事だが、第一に楽しむことが大事だと3人のうちの1人が話していた。この踊りは格好いいんだ、魅力的だということを伝えるためにホームページやSNSを展開している。攻めの姿勢で変わらないために変わるという決意で取り組まなければならないと思っているというような話をしていた。そもそも農作業の合間に楽しみや喜びのために踊っていたのが、時代が変わり、人が減り、子どもが減り、新しい形も大事であると感じた。また、地道な広報活動で新たに10人の若手が加入した。衣川中学校3年生の生徒がインタビューで中尊寺のお祭りを見て格好いい、自分で「また」踊ってみたいと話していた。「また」ということは、小学校等で経験したことがある、そういう種まきがされており、時を経て芽を出したのだと思う。地元で継承されるのが理想の形だと思うが、種まきと新しい形とがあるところの団体から感じた。また、配信まではできそうだと思うが、そこから個人練習やネット視聴につなげることに工夫が必要だと感じた。

松本委員：郷土芸能ではないが、一昨年から剣道を始めた。剣道もこれに近いものになってきている。わざわざ暑い思いをして打たれるなど、はたから見ると野蛮なスポーツという感じで、かつ、精神性を重んじるという意味で剣舞や神楽に似た空気を感じている。鹿踊りをやっている人に、どうしたら人が増えるか聞いてみたところ、「やってみなければ分からない」という声が多く、やってみると精神が高まるとか、心が落ち着くとか、地域に根付いている感じがするとのこと。体験するということは、とても大きいと思っており、江刺の小学校は鹿踊りと甚句踊りをやることに誇りを持っている。子どものころに感じた痛烈な印象という意味では、文化祭のゲストで小学校などで実際に踊って見せることも大事である。子どもほど興味を持つというのが鹿踊りをやっている人の感覚である。子どもから触れる機会を増やしていければと思う。最近、特定の宗教を推すのは、あまりよくないのかなという感じもある。宗教的な意味合いが強いものを学校でやるかとなったときに、それは難しいと感じる。杞憂かもしれないが、宗教と教育とを密接にさせ過ぎてはどうなのかなと思う。

吉田委員：難しい課題ではあるが、青少年と成人とに分けられるのではないか。地域に親しみ地域を知り、ということで小学校の高学年を中心に地域の郷土芸能活動を行う学校が多かった。衣装を用意し、運動会や学習発表会でやることが多くなり、そこに地域の指導者が関わり、学校と地域という形でやっていたが、郷土芸能活動をしていた学校が少子化により閉校している。子どもたちが地域から少なくなり、閉校になり、地域でも芸能活動に関わる子どもたちがいなくなっている。旧赤生津小学校では運動会、学習発表会や敬老会で発表していたが、閉校後、活動に参加する子どもが少なくなった。閉校時には8人いたが、現在は2人しかいなくなった。人が足りないため、今年の例大祭には小学生時に経験のある母親の1人が対応した。小さいころに経験していれば、大人になってもできる。小さいときにこそ経験が大事である。体験塾を開いているが、子どもも大人も忙しく、若者には馴染まず人

が集まらないとぼやいていた。子どもたちがいなくなったら終わりだと言っている。どこの地域もそうかもしれないが、子どもたちがいなくなってくると大人になっても関わる人が少なくなるのが目に見えている。踊るだけ、演奏するだけではだめで、地域の踊りの歴史や意義を理解しないと続かないと言っていた。それらを理解しながら伝承活動を行うことが大事だと思う。

倉成市長：学校行事や地域の文化祭などいろいろな発表する舞台も消えており、その影響もあると思う。教育と宗教は、気を付けなければならない部分である。ただ、あまり深く追いすぎると何もできなくなるので、パフォーマンスすることの楽しさが表にあることがいいと思う。地域に根差さず、人を集めることだけが目的になると、変な方向に向いてしまう。地域の文化があって、これがあるというつながりがないと風船のように行ってしまう。19団体が今後活動できるかという状態に追い込まれており、このままだとメインで活動している団体しか残らないという危機感を持っていると思う。一部の地域だけで継承されてきたものを提案のあったような形で手間をかけて残すかどうか議論すべきところだと思う。

高橋教育長：郷土芸能は、地域愛を育てるツールとしては非常に有効であり、ほとんどの小学校でやってきた。踊りを通して発表の場もあり、地域を理解して地域を好きになる。剣舞や神楽を全校でやらせると、非常に好きで取り組む。都会に出て一時中断していても戻ってきて復活させることもできる。学校単位でできなくなってきたことをどうするかが大きな課題である。統合により、自分の地域でない学校へ行くと学校行事で自分たちが今までやっていたものができなくなってきた。その部分をどこで代替して地域理解につなげるかが大きな課題である。幸いにもまだやっている学校があるので、統合が関わらなければしばらく続けられるだろう。例えば、衣川の2つの小学校はそれぞれ神楽をやったり剣舞をやったりしている。衣里でやっていた大念仏剣舞をまたやろうとしている中学校の子どもたちも増えているので、その勢いを維持してもらえばよい。統合により地元になかった部分は広域で魅力を発信すればよいと思う。特に統合した学校は1つに絞れないので、やってみたいという子どもたちがいれば集めて取り組みができる。

倉成市長：そのコーディネートはどこがやるのか。

高橋教育長：学校だけでは無理だと思う。

千葉協働まちづくり部長：当部でその一部を担っている。旧江刺市は各学校1郷土芸能をやるという方針であった。その基盤があり、現在も続いている。その中で、市町村合併や学校の統合時に文化芸能の伝承をどうするかというのが話題になり、地域が継承するしかないということで、地域運営交付金の中に生涯学習の支援補助金があり、それらを使って各地区で伝承してもらう。ただ、それだけではきついと思う。25年前からこのような課題があり、当時、保育所、小学校からやって次のエースと言われる上手い子が中学校でスポーツをやるため、郷土芸能を止めるということがどの郷土芸能でもあった。岩谷堂農林高校が高校生の鹿踊りをやり始め、県の文化祭等でも好評を得て、高校を卒業しても石関などに集い、若い人がいる元気な団体はどんどん活動している。これをやればという解決策は出ていないが、活動している振興会

もある。指導する保存会や師匠自体がいなくなった団体があり、25年前も鴨沢神楽が文化庁の補助金を活用して3年間をかけて36演目を記録、保存した。記録事業を実施したから残せるかというのと、それだけではなく、いろいろな組み合わせをしていかなければならない。難しい課題が今も続いている。

倉成市長：36演目撮った踊りの踊り手は、今もいるのか。

千葉協働まちづくり部長：残っていると思う。鴨沢神楽はまだ活動しているとのこと。当時でも36演目全てを踊れる人はいなかったもので、記録が必要であった。踊りのほかに伝承の巻物や衣装の着方なども記録、保存したために3年かかった。このようなことに取り組んでいるが、それをやるから後継者が残るというわけでもない。まして、学校が統合すると更に大変だという話を聞く。

倉成市長：八幡平のハロースクールのカリキュラムは、世界のリーダーを作ることが目的としている。その中に郷土芸能や市民劇などがある。郷土芸能を知るというのは、作法を知るとか歴史を知るとかの応用編であるとのことである。市民劇は、プレゼンテーション能力を高めるということで必要である。最近の若い母親や子供たちを刺激する方法として、単なる伝承だと重いので、リーダーを目指すためにやるのだということが動機付けとしてあればいいのではないか。複数の動機付けがなければならない時代になっているのではないか。

吉田委員：会議資料で問題なしとしている団体が28団体あるが、問題なく続けられるというのは、どういうことか。郷土芸能の団体は住宅地ではなく、農村部にしかない。高齢化により復活が困難としているが、各団体の構成年齢を知りたい。若手が入ってこないと思えば存続はできないと思う。問題がないという団体があるとすれば、他の団体と一緒に集まる交流会があればいいと思うが、同じ流派でも地域によって違うため、踊りの交流にはならないとのこと。集まるとすれば、存続のための事例発表のような交流会により、存続のためにどうすればよいか話し合う機会にしてはどうか。

倉成市長：問題なしが2年間で34団体が28団体になるのは問題があるということではないか。

小野寺歴史遺産課長：問題なしの団体は鹿踊りである。鹿踊りが続いているのは、格好いいということがある。40歳ぐらいになった方から格好いいから入ったという話を聞いた。岩谷堂高校では部活があり、若い方が多くいると活気が出てきて問題なしということが多いようだ。一番古い郷土芸能は軽石念仏剣舞で、子どもたちがやる剣舞だが808年である。808年は、胆沢城が鎮守府になった年である。

千葉協働まちづくり部長：流派を越えての交流という意見があったが、それに取り組んだのが、鹿踊り、神楽の団体である。各団体の個別活動だけでは後継者もいなくなり続かないということで、喧嘩をしながらも残すために流派を越えて百鹿大群舞を創作し、銀座や大阪に招かれて踊り、それらを見て格好いいと高校生や若い人が入って今なんとか30年近い取組の中で戻ってきた。鹿踊りや神楽も後継者がいなく危ないときがあったが、そのときに流派を越えた交流で現在は安定した団体になっている。神楽も流派がたくさんあるが、

年に1回神楽だけの大会やるなどの取組をしているが、後継者が入らないと続かない。

倉成市長：鹿踊りは体力維持のため、毎週練習しているのか。

千葉協働まちづくり部長：スポーツの部活動と同じで、土日や、仕事が終わった夜など定期的に練習している。

倉成市長：舞台があるからだろう。

千葉協働まちづくり部長：藤原の郷で1年間定期公演を行っており、踊る時期に合わせて練習して発表するとうやりがいがあるため、続いている。他の団体よりちゃんと踊らないと格好悪いという意識で活動している。

倉成市長：北上の鬼剣舞は、一番うまい人が白い面を被ることができ、それを目標に練習する。そのような要素や舞台を作らなければいけない。今の若い人の感覚でもやってみたい、格好いいという要素が必要なのかもしれない。

高橋委員：格好いいという言葉が出ているが、大人も子どもも格好いいなと思うところから興味を持って入るのかなと思う。それには、見せる発表の場を沢山作らなければいけないと思う。昔の郷土芸能は、その地域の人しかやれないとか、男性しかだめだとか、男性でも長男でなければならないとか制限があった。今の少子化の中で地域や性別を問わず興味のある人はどんどん来てくださいという形でやっている。ユネスコの登録、百鹿の受賞など内外から注目されたので、これを機会にどんどんアピールし、興味のある人に来ていただきたい。全てを継承するのは難しいかもしれないが、ここまで続けてきた団体なので、残していきたい。芸能祭り等の会場に来ている子どもたちの表情を見ると、目をキラキラさせ興味を持って見ている。発表の場で子どもたちや若い人たちに見せる機会をどんどん作ればいいのかと感じた。

高橋教育長：川西大念仏剣舞のYouTubeを見たが、とても格好いい。小中高生が見れば、やってみたいと思う子は少なからずいるのではないかな。配信などの手法は、隠れたファンを引き付けるツールになると思うので、そういった仕掛けがぜひ欲しいと思う。

松本委員：川西市大念仏剣舞のスタイリストは高校の同級生である。浜崎あゆみのスタイリストをやっていて、魅せるのがうまい。地元に戻り念仏にはまり、N0念仏N0ライフのような感じで格好よくPRしている。興味がなかったが、編集を通じて興味を持つというような関係人口的な増え方から地元に戻り根付くというパターンもあり、おもしろいと思う。胆沢の鹿踊りは跳ねないのが魅力であり、江刺の鹿踊りは邪道だなど伝統は難しいと感じる。水沢高校の応援団もそうだったが、伝統を引き継げないならやらなくていいというスタンスが上になってしまうと引き継ごうとしている人も引き継ぎづらいと思う。火防祭りも相当緩くなったと思うが、男の子が乗りたいと思ったときに太鼓を叩く女の子は巫女さんだから男がやるものではないというおじいさんがとても強く、その結果が今になっている。江刺の人たちは、相当ぶつかった結果緩くして、裾野を広げた。大地を守る会の代表が奥州市で講演をしたときに、自分たちのやってきたことを頑なに守るという原理主義は、ファンは付くが裾野が広がらないので、らでいっしゅぼーやなどと手を組んで、入

口を広くした。何か入口を広くする手立てはないか。水沢小学校から江刺の鹿踊りに参加した子の話によると、公演に参加すると公演料がもらえるらしく、その一部が自分に入る。その公演料を使ってお祭りで遊ぶなど小遣い的なものになっている。お金が動く心も動く。

倉成市長：いろいろな動機付けがないと続かないだろう。行政が絡むとして、伝統芸能として厳密に残すものが数個あり、残りは時代に合わせてどんどん変わってもらおうという分け方もある必要ではないか。どうしても残したいものがあるのではないか。

高橋教育長：全部残すのは不可能で、淘汰されると思う。重点的に残さなければならぬ、絶対残したいものを選ぶのも大変だと思う。

倉成市長：江刺の鹿踊りだと、最大公約数を入れ、後はそれぞれの流派で入れて厳密に守っている。そういったやり方もあるかもしれない。厳密に守るのはこれだという形でやらないと残らないと思う。厳密なものほどどんどん廃れていっているはずである。そのような線引きをどうするかが難しい。

高橋教育長：今年から全部の中学校で部活動が任意加入となった。郷土芸能の部が高等学校にはあるが、中学校にあるというのはあまり聞いたことがない。部活動に入っていない子たちでやってみようという子がいれば、そういった受皿もあるのかなと思う。

高橋委員：小学校のときは興味があって入るが、中学校に進学すると部活動があるため、だんだん遠のき、終わってしまうと郷土芸能団体が言っているのを聞いたことがある。子どもによっては、スポーツよりもそれをやりたい子もいるのではないか。

高橋教育長：その他部という部がある。部と言っても囲碁、将棋や、科学部もどき、文化部もどきなど違うことをやり統一性がないが、90人ぐらいいる。その中から募ると10人単位でいるかもしれない。

高橋委員：北上湘南高校の剣舞が凄い。ああいうものが中学校にあってもよいと思う。

高橋教育長：小学校は見ていてかわいいが、中高生になるとかなりダイナミックになり、そのまま保存会に移行する子もいると思う。

倉成市長：集まったとして、何をやるかが大変である。運動部で冬場の筋力トレーニングで踊りを取り入れるなど工夫が必要である。

吉田委員：NHKのローカル番組で見た話だが、平泉の達谷窟の近くに住んでいる20代の女性が東京で会社勤めをして帰ってきた。祖父が神楽の指導者で小さいころから携わっていたが、それが嫌で東京へ行った。祖父が亡くなった後、母親が細々と指導しながら地域でやっていた。故郷の踊りが母親で終わりだと自覚していたが、平泉中学校の体育館に女の子が集り、その女性が指導して復活し始めたという内容であった。指導者がいるとつられて集まったり、やり始めたりするのだと思う。特別な例だと思うが、指導者に憧れたり、引っ張られたりして人間は動くのだと感じた。先輩だけでなく、若い方からもリーダーが出ればよいと思う。

倉成市長：熱意のある指導者がいるところは続いているのだろう。

高橋教育長：今までは実際に踊るのが主流で、いろいろな行事で発表する形も

あるのだろうと思う。学習として取り上げるのであれば、必ずしもそうでなくてもいいと思っている。地域学習の一環、例えば探究的な学習で取り組ませ、地域の郷土芸能について調べさせるなどの学習もあるのかなと考えている。そうすれば、統合した学校でもできる。統合した学校であれば、自分の住んでいる近くの郷土芸能を調べればよい。それで興味を持ったら実際に踊りにつながるのではないか。郷土理解の部分として面白い題材だと思う。

倉成市長：そのときに動画などが役に立つ。

高橋教育長：自分たちで調べようと思っても限界がある。動画が見られる仕掛けがあれば、子どもたちが1人1台端末から調べられる。

松本委員：郷土芸能部に入ったら内申点を上げるなどすれば、下心が混じるが動機付けとしてはいいのではないか。

高橋教育長：全国のステージに立つなど顕著な活動でなければ、評価に値しない。郷土芸能に限らず、興味関心のあるものに打ち込んでもらえばよい。

倉成市長：踊る方を募集するのではなく、映像を追求する方を作ればいいのではないか。子どもたちにとって動機付けは重要である。大人の舞を見て動機付けられれば一番よい。

高橋委員：動画を作るときに、団体の歴史や由来、踊りのストーリーも入れるとよい。それがあると見方、興味の持ち方が変わる。

倉成市長：それは必要だと思う。興味のレベルが違ってくる。

菊地委員：川西大念仏神楽のホームページで面を外した顔が見え、親近感が沸き、よいと思った。面白そう、楽しそう、格好いいというものが必要だと思う。伝承は大切だが第一に楽しむことという思いでやっている素颜で若手が言っているのはきっかけになると思う。多くの団体のホームページは演舞だけで、問合せ先が携帯電話となっており、なかなかハードルが高いが川西大念仏神楽はメールで問合せができるので入りやすい。

倉成市長：動画も教科書的な内容だけでなく、プロモーション的な内容も入れる。

菊地委員：どういう思いでやっているなど、楽しい、やってみたいという雰囲気伝わってくる感じであった。

小野寺歴史遺産課長：来年のNHK大河ドラマ「光る君へ」は平安の関係で安倍晴明が出てくる。安倍晴明の物語の郷土芸能が神楽で、葛の葉というのがある。来年、それを発表できればという思いがあり、今年の神楽大会のときに来年出せないか話をしようと思っている。格好いいというところから盛り上がってもらえないかと考えている。

倉成市長：そういうチャンスを手く活かすということだと思う。いろいろな刺激がある子どもたちに対して郷土芸能の魅力を伝えるのは、ハードルが高い。動画作りも上手くやらないといけない。単にできましたで終わると辛い。

松本委員：今の子どもたちは、最初の2秒以内で面白くないものは見ない。最初のインパクトが大事である。

千葉協働まちづくり部長：文化財として記録保存するのは文化庁の基準があり、余計なものはやらない。かつて、鹿踊りを売り込もうとささらホールで鹿踊りショーをやっていた。文化財どおり演じると45分から1時間ほどになり長

い。そのため、創作するときは時間調整したり、煙を出したり、スポットを当てたりショーのようにして、入場料を払っても見に来る人がいるようなやり方をしたことがある。煙幕の中でスポットライト充てると格好いいと感じた。団体によっては、そういうことはしないという団体もある。

倉成市長：後継者を育てるという視点で文明の利器を活用ということなので、トライしてみることだ。市のいろいろなイベントに盛り込むこともあるかもしれない。

小野寺歴史遺産課長：いただいた意見を踏まえ、保存会の方々とイメージを共有しながら進めたい。

第5 その他 なし

閉会